



八千代市 農業委員会だより



新規就農者
インタビュー

八千代市米本 きむら農園



木村 尚人さん
絵梨子さん



八千代市米本で令和3年より就農し、
マスクメロン「アールスメロン」と
ミニトマト「かむり」を栽培している
きむら農園さんにお話を聞きました！



販売期間：7月上旬から7月中旬

販売期間：9月から翌年6月

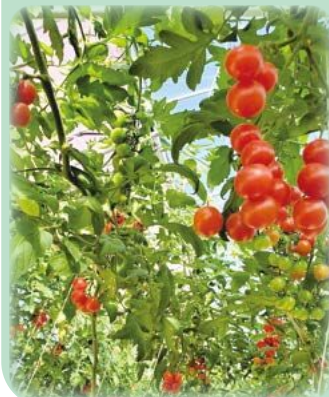
メロン農家を目指したきっかけは？

🍈 転職を考えて、インターネットで職業別の年収ランキングを上から順に見ていたら、メロン農家が出てきて「これだッ！！」と思いました。もっと調べると、とても評判の良いメロン農家(富津のモリタ農園さん)を見つけて。すぐ電話して見学に行ったら、**ずらっと何列も並んだマスクメロンに感動して**「すごい！これを作りたい」と、**夢を見せてもらいました**。それからモリタ農園さんと繋がることができて、2年ほど修行させてもらいました。



▲木村夫妻とインタビューの三栗谷推進委員
(2024/3/27きむら農園にて)

ミニトマトを栽培したきっかけは？



🍈 就農して1年目は、諸事情で**メロンの作付けが間に合わなくなって**しまつて。修行ではミニトマト作りも経験していたので、今から準備できるし、**需要も見込めるからやってみよう**と。そうしたら評判になって、「トマト嫌いの家族でも、これなら食べられる」とか「ギフトとして贈ったら、お菓子よりも喜ばれた」と、お客様が沢山来てくれるようになりました。実は、僕自身もトマトが少し苦手なんですけど、うちのミニトマトは食べられます(笑)。

きむら農園のこだわりは？



🍈「土づくり」ですね。モリタ農園さん譲りの優れた肥料と資材にプラスして、**ミネラルたっぷりの海藻**を乾燥・粉碎したもの、有機肥料を分解・吸収しやすくする**微生物資材なども配合しています**。また、定期的に土壌検査をして、土のコンディションを詳しく診断しています。例えば、土の中にどれだけ微生物がいるかを示す「コロニー数」を測定して、適度な値になるように調整します。ふかふかな土づくりが元気な根を育て、それが栄養分をたくさん吸い込んで、メロンとトマトの旨味とコクになるんです。

メロンの栽培でたいへんなことは？

🍈マスクメロンは、贈答用としての見た目も大切です。幼花のときに筆や爪でうっかり付けた跡が傷として残るため、**授粉と誘引では常に気が抜けません**。また、環境制御システムを導入して、水やりの量と温室の温度・湿度・二酸化炭素濃度が最適値になるように管理しています。これらの数値と実際の生育状態の僅かなズレが玉の硬さ・柔らかさに、ひいてはネット(網の目模様)の良し悪しに現れるので、**プログラムの設定は日々微調整が必要です**。さらに、より綺麗なネットにするために全玉を軍手でこすります。出荷までに3〜4回ほど、**およそ1,000玉を手で丁寧に磨くんですよ**。もう、ザ・腱鞘炎です(笑)。



やりがいを感じることは？

🍈マスクメロンを初めて食べたお客様が、**目をパツと開いて「なにこれ！美味しい〜」**って、そのリアクションには、本当に報われました。メロンもトマトも旨味重視で作っているので「味が濃い」とか「香りがすごい」、「**こんなの食べたことない**」と褒められると嬉しいですね。「美味しかったから、また来たよ」というお客様に「ここと、あそこにも配りたいから追加で」と他の人の分も買ってもらえる。うちってたぶん、そんな方達のおかげで成り立っているのだろうなあって思います。

今後のビジョンは？

🍈千葉のマスクメロンとして最高と言われるものを作りたいし、もっといろいろな人にも食べてほしい。だから、**より深い旨味とコクのあるメロン作りを目指していきます**。併せて、贈答用でもあり、ご褒美の自家用としても買ってもらえるバランスを守っていきたい。あと、うちのマスクメロンとミニトマトが好きだからと買いに来てくれる方達のためにも、対面での濃いコミュニケーションを大事にして、**これからも喜んでくれる顔を見ていきたいです**。



商品の直売分がある時はこの旗が出ています！

きむら農園さんよりメッセージ

うちは小さな農園で、地元の農事組合法人で田んぼ関係も担っているのですが、皆さんにはご迷惑をかけてばかりです。

私たちの都合に合わせて直売所に来てくださるお客様、農園の諸々に手を貸して下さる周りの方々、子供の習い事の送迎をしてくれたり、フォローしてくれる友人たち。

そんな温かい皆様のおかげで、きむら農園は成り立っております。いつもありがとうございます。

(日頃の感謝を込めて 木村絵梨子)



〈きむら農園 -KIMURA FARM-〉

Add.千葉県八千代市米本1488

Open 10:00-12:00/13:00-17:00 (不定休)

販売期間 メロン 7月上旬~7月中旬

ミニトマト 9月~翌年6月

※商品が無くなり次第
終了になります。

☆ 詳細は公式ホームページをチェック!



Q 八千代市 きむら農園

【取材後記】

きむら農園さんの開業と私が薪屋を起業したのが同じ時期で、当時から励まし合っていました。なので、推進委員に就任し、広報委員として初めての取材に伺ったのがきむら農園さんでびっくり！でした。今まで3年間の頑張りを見てきたので、マスクメロンもミニトマトも激推し！！です。

(広報委員 三栗谷 友理)



委員活動報告



千葉・東葛飾地区女性委員研修会の開催

令和6年6月20日、松戸市内にて千葉・東葛飾地区の女性委員研修会が開催されました。松戸市農業委員会会長のご挨拶から始まり、千葉・東葛飾地区代表である八千代市の黒崎農業委員に続いて、各市委員が自己紹介を行いました。皆で昼食をいただく頃には雰囲気もだいぶ和み、次第に笑い声が絶えないひと時になりました。その後も後継者不足や担い手の高齢化など、委員同士で忌憚のない意見が交わされており、とても有意義な研修会でした。次回の開催地は習志野市とのことです。

(広報委員 黒澤 京子)



農業委員会の活動

地域計画の話合いを進めています。

地域計画とは、地域農業の現状と課題を把握し、将来の農地利用の方法を決めるものです。

農業の担い手を確保しつつ、農地中間管理機構を活用した農地の集約化等を進めるための計画を策定し、併せて10年後に目指すべき農地利用の将来の姿を明確化した「目標地図」を作成していきます。

八千代市においても地域計画の策定が進行中であり、令和6年度内の完成を目指しております。

これから皆様の地区でも地域計画の策定へ向けた話し合いが始まりますので、積極的なご協力をお願いします。

筆ごとに耕作者を色分けした目標地図



各地区での話し合いの様子



お知らせ

2025 年農林業センサスにご協力をお願いします。

令和7年2月1日から全国一斉に“農林業の国勢調査”といわれる「2025年農林業センサス」が実施されます。

この調査は、今後の農林業の政策に役立てるために5年ごとに実施される、とても大切なものです。

農林業を営んでいる皆様のところへ、令和7年1月中旬から調査員が経営状況等を記入する調査票を持って訪問しますので、ご協力をお願いします。



農林業センサス

※詳しくは、情報政策課統計調査班
(☎047-421-6706) までお問い合わせください。

お知らせ

農地の貸借方法が変わります。

地域計画の法定化に伴い、令和7年4月以降または、地域計画が策定された地域は、原則として農地中間管理機構を経由した農地の貸借方法となります。

なお、従来の農地法第3条による農地の貸借はできますが、市町村が作成する農用地利用集積計画(利用権)による農地の貸借はできなくなります。

既に利用権設定されているものは、期間満了日まで有効となります。



●農地の貸借に関することは、

八千代市農政課 (☎047-421-6763) または
八千代市農業委員会事務局 (☎047-421-6793)

●制度に関することは、

※(公社)千葉県園芸協会農地部 (☎043-223-3011)
までお問い合わせください。

※(公社)千葉県園芸協会は、千葉県から農地中間管理機構に指定されています。

八千代市農地等の利用の最適化推進施策に関する意見書の提出について

令和6年9月11日、農業委員会から服部友則市長へ「八千代市農地等の利用の最適化推進施策に関する意見書」を提出しました。

意見書は4つの項目から構成されています。

- ① 遊休農地の発生防止・解消に向けて
- ② 新規参入の促進に向けて
- ③ 農業経営の安定対策への取組に向けて
- ④ DXを活用した取組の推進について

① 遊休農地の発生防止・解消に向けて

本市の遊休農地は約102ヘクタールが存在し、周辺のほ場への被害（雑草繁茂、害虫・有害鳥獣発生）が生じている。今後、担い手の不足により、遊休農地はさらに増加していくことが見込まれる。

農業委員会においても遊休農地解消事業を手掛けているものの、遊休農地を耕作が可能な状態に復旧するためには多大な労力を要するため、発生を未然に防ぐ対策が必要である。現在、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るため、「地域計画」の策定に取り組んでいただいているところであるが、計画の策定により使用できる支援策のPR活動を推進し、引き続き「地域計画」の策定を推進する等、遊休農地発生を未然に防ぐ対策を講じていただきたい。

また、小区画水田の再基盤整備事業や、畑地への農地耕作条件改善事業等の推進、山林から農地への侵入を防ぐため、間伐等の森林整備への支援について検討していただきたい。



② 新規参入の促進に向けて

近年、農業者の高齢化に伴う担い手の減少が顕著であり、喫緊の課題となっている。今後、担い手を確保するためには、市外や、農業以外の業種からの参入が欠かせない。

本市では新規就農希望者の相談件数が例年一定数あり、農業委員会においても農地のあっせん等を通じ、新規就農者の確保に努めているが、着実な確保に繋げるには、本市農業の長所を周知し、他市町村との差別化を図り、新規就農者への適切な情報提供とフォローアップが重要である。

そこで、新規就農者の確保に向け、就農支援策を取りまとめたPR活動を推進するとともに、千葉県農業大学校や市内農業者等民間事業者を交えた、新規就農に至る枠組みの構築について検討していただきたい。

③ 農業経営の安定対策への取組に向けて

農業者は、昨今の円安・世界情勢の変化に起因する肥料・生産資材・飼料の高騰や、人件費上昇等により、極めて厳しい経営状態に置かれており、農村への将来の影響が一層懸念されている。以下の点については、事前に要望した事項ではあるものの、持続可能な農業経営を実現するにあたり、引き続き検討していただきたい。

(1) 多目的防災網等への市単独補助

県事業である「気象災害に強い果樹産地支援事業」は、令和6年度をもって事業としては終了してしまうため、事業の存続を県に要望していただくとともに、多目的防災網及びビニールハウスに対する市単独の補助を創設し、多目的防災網等の更新に対しても、補助対象にできるように検討していただきたい。

(2) 肥料・資材・飼料価格高騰への継続対策

今年度に引き続き、肥料・資材価格高騰対策及び飼料価格高騰対策について検討していただきたい。

(3) 耕畜連携の取組推進に向けて

耕畜連携の取組を推進するために、農家が出した剪定枝等を活用し、堆肥を製造することができる「総合有機廃棄物処理場の整備」を推進されたい。また、飼料用作物の生産に対する補助として、新規需要米生産支援事業の予算を確保されたい。加えて、市単独の補助の創設を検討していただきたい。

④ DXを活用した取組の推進について

現在、農業委員会総会における議案書等の会議資料は紙媒体で配布されており、事務局から農業委員への事務連絡も紙媒体で連絡・提出が行われている。また、農地法第30条に基づく農地利用状況調査等の現場活動において、農地の情報を現地で確認する手段はなく、調査精度に影響を及ぼしているほか、調査記録（利用状況・写真等）を別途システムに入力する必要がある等、非効率な事務処理が行われている。

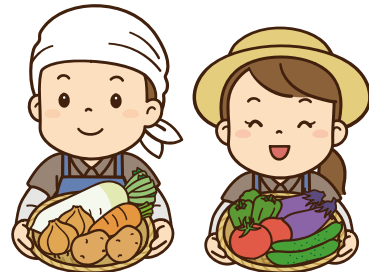
他方では、農業経営基盤強化促進法の改正により、農用地の効率的かつ総合的な利用を目的とした「地域計画」の策定が義務化され、その策定にあたっては農政課と農業委員会が連携し、地域ごとに関係者を集めた協議の場を設け、農業者の同意をもって計画案（目標地図）を作成し、策定後も定期的に見直す必要があるなど、多大な労力をかける必要がある。

これら課題をDXにより解決する新たな取組として、タブレット端末等の業務効率化システムを導入し、手記などに依存していた業務を全て電子化することにより、事務の効率化を図れるよう検討していただきたい。

ご案内

農業者年金で 老後の生活に 備えませんか

- ★国民年金第1号被保険者（保険料納付免除者を除く）
（ただし、60歳以上は国民年金の任意加入被保険者）
★年間60日以上農業に従事している方
★20歳以上65歳未満の方
これら全てに適合する方ならどなたでも加入できます。



農業者年金の5つのポイント

- ポイント1** 農業者なら広く加入できる。
ポイント2 積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い。
ポイント3 保険料は、月額2万円（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）から6万7千円まで千円単位で自由に決められ、経営状況や家計の状況に応じていつでも見直せる。
ポイント4 終身年金。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金として遺族へ支給される。
ポイント5 支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となり、節税ができる。

農業者年金にはメリットがたくさん！

老後の備えは **国民年金＋農業者年金** で！

詳しい内容は、
「農業者年金基金」
ホームページまで



問い合わせ先

農業者年金のご相談・加入申込みは、JA 八千代市（☎047-450-3711）
または農業委員会事務局（☎047-421-6793）へ。

ご案内



充実した農業・農村の情報が届く！

発行日：毎週金曜日（月4回）

購読料：月額700円（送料・税込み）

申込み先：農業委員会事務局（☎047-421-6793）

編集後記



広報委員として活動するようになり、新規就農者が増えていることを改めて実感しています。八千代市には平らな畑が多いこと、農作物を販売する施設にも恵まれていること等が、就農にあたって好条件なのでしょう。高齢化が進み、耕作放棄地が増えるなか、農村を守ってくれる経営者となってくれることを期待しております。

（広報委員 周郷 崇）

令和6年11月発行
第53号

発行 八千代市農業委員会
編集 広報委員会

〒276-8501
千葉県八千代市大和田新田312-5
☎047-421-6793

🔍 八千代市 農業委員会だより